

# 英国派遣 甲南高で壮行会

## オックスフォード大生らと交流

鹿児島市の県立甲南高（海江田修誠校長、945人）の2年生15人が英国に派遣されるのを前に13日、同高で壮行会が開かれた。幕末に薩摩藩が英国に派遣した留学生「薩摩スチューデント」が帰国後に活躍したことにちなんだ取り組み。男子生徒3人と女子生徒12人は3月3～12日まで、オックスフォード大の学生などと交流する。



壮行会で決意を述べる山下さん（中央）

甲南高の創立110周年記念事業として、同窓会が「世界で活躍する人材に育ってほしい」と企画。2024年度までの10年間、2年生を対象に毎年実施するという。

生徒たちはオックスフォード大で「人口問題に起因する諸問題の解決」をテーマに英語で発表する。ケンブリッジ大の研究室を訪問したり、現地の高校生と交流したりする。滞在中はロンドン市内でホームステイする。

この日の壮行会には、派遣される生徒15人のほか、卒業生や教職員ら約60人も

参加した。生徒代表の山下紗里菜さん（16）が「鹿児島日本にはない出会いやチャンスがたくさんある。その一つひとつを逃さないようにしたい」とあいさつ。記念事業実行委員長の鎌田六郎さん（75）は「心を開いて勉強し、地球規模で物事を考えて行動できる大人になってほしい」と激励した。派遣予定の野元聡真さん（17）は、「孤立死を解消するための高齢者と若者によるホームシェア」について自身の考えを披露。野元さんは「現地で何を学ぶかが大切。自分の発表がどのように受け止められるのかが楽しみ」と話した。